

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1)学力向上進学重点校として、生徒が希望する進路実現のための教育課程を編成する。</p> <p>(2)授業の質の向上と量の確保に努め、生徒の一層の学力の向上を図る。</p> <p>(3)世界的な視野で物事をとらえ、現代社会における課題を見出し、自身の力を発揮しながら主体的に課題解決を図る力を育成する。</p> <p>(4)「生徒の心に火をつける授業」を追求し、質の高い教育を充実させるため不断の授業改善を行う。</p>	<p>&lt;教育課程&gt; (1) 学力向上進学重点校として、県立高校改革実施計画に基づく「質の高い教育の充実」のための教育課程を編成する。</p> <p>(2) グローバル化が進む社会の中で求められる資質・能力を育成するため、生徒の国際的視野を広げる学習プログラムを計画し実施する。</p> <p>&lt;学習指導&gt; 本校に求められている学びの在り方を追求し、生徒が主体的に探究し、考察する力を高められるよう不断の授業改善に取り組む。</p>	<p>&lt;教育課程&gt; (1) ①生徒一人ひとりの進路希望をより高く確実に実現するための教育課程を不断に追求する。</p> <p>②教育課程における「指導と評価の一体化」の趣旨を活かした適切な観点別評価方法の検討を行い、実施する。</p> <p>(2) ①姉妹校交流の効果を検証し、継続に向けたプログラムの開発に努める。</p> <p>②国際交流委員会の活動を中心として様々な行事、国際理解教育活動を増やし計画的に実施する。</p> <p>&lt;学習指導&gt; ①1人1台端末や ICT 機器の活用をとおし、教員の授業力向上を図り、生徒の「学びに向かう力」及びその評価方法に係る授業づくりを組織的に推進する。</p> <p>②DX ハイスクール事業2年目の取組として、補助金で整備した機器の有効活用を図る。1人1台端末を持続的かつ効果的な利活用を図り、組織としての授業力向上を図る。</p>	<p>&lt;教育課程&gt; (1) ①生徒にとって満足度の高い教育課程の編成ができたか。</p> <p>②学校として一貫した観点別評価方法を確立し、実施できたか。(担当者による評価)</p> <p>(2) ①姉妹校交流を適切な実施計画により実現し、生徒の国際的な視野を広げることができたか。</p> <p>②国際交流委員会の活性化が図られ、生徒の国際理解活動が推進できたか。(生徒対象アンケート)</p> <p>&lt;学習指導&gt; ①校内授業研究及び公開研究授業を通して、本校に求められる「自立・自走」の基盤となる「主体的に学ぶ力」が高まるような授業改善が推進できたか。(担当者による授業評価、生徒による授業評価)</p> <p>②ICT 機器の活用を通して「グローバル探究」の充実を図り、「深い学び」につながる効果的な授業実践が実施できたか。(DX ハイスクール事業の取組成果、生徒対象アンケート)</p>	<p>&lt;教育課程&gt; (1) ①難関国公立大学合格に向けた教育課程を編成し、生徒の一人ひとりの高い進路実現に必要な発展的な学力の育成に努めた。</p> <p>②新教育課程の3学年の設置科目の履修状況を踏まえて、令和8年度入学生の教育課程の一部科目の廃止と科目名の変更を決定した。</p> <p>(2) ①6年ぶりに受入れを行った。数年間途絶えていた一連の業務の継承体制が構築できた。一方、訪問は昨年度に引き続き、年度末の3月に実施した。</p> <p>②横浜国立大学等の留学生と本校生徒とで国際交流会を年間2回実施、定時制生徒の交流会を実施した。また、国際交流委員会の活動の一環として「即興型ディベート」にも取り組んだ。</p> <p>&lt;学習指導&gt; ① 生徒の「カリキュラムマネジメントを意識した翠嵐スタンダードの達成に向けた授業」を年間テーマに「組織的な授業改善」を行い、その成果を他校に発信した。</p> <p>②DX ハイスクール事業を推進する校内ワーキンググループを発足させた。図書館内にモノづくりコーナーを設置に向けて取り組んだ。</p>	<p>&lt;教育課程&gt; (1) ①新学習指導要領の趣旨を踏まえて、本校の教育課程上の課題を発見し、不断のカリキュラム・マネジメントを実践する。</p> <p>②引き続き各教科・科目の年間指導計画を精査し、適切な学習評価が実施されているか検証する。</p> <p>(2) ①運営に関する課題を洗い出し、姉妹校交流の一連の業務について引継ぎ体制を構築する。</p> <p>②今年度実施した世界銀行副総裁やIMF関係者による国際講演会は、日程の設定が急だったのにも関わらず、多くの生徒が参加できた。生徒にインパクトがあるものとなった。</p> <p>&lt;学習指導&gt; ①「組織的な授業改善」の取組が職員全体の取組となるよう、工夫を凝らしていく。</p> <p>②DX ハイスクール事業3年目の推進に向けて、その中核となる取組の一つであるグローバル探究における数理・データサイエンスの授業や生徒の探究活動の支援の充実資する取組について検討する。</p>	<p>・県下の公立高校の中でも格段の難関国公立大学への進学実績をあげている。</p> <p>日々の学校の取組については目を見張るものがある。</p> <p>・質の高い授業づくりのために多くの時間をかけていることに敬意を表したい。</p> <p>・保護者の立場として、日ごろから先生方が生徒のために頑張っていることに深く感謝したい。</p> <p>・授業や生徒の課外活動でデジタル機器を非常に有効に活用していることがわかった。</p>	<p>&lt;教育課程&gt; (1) ①新教育課程の実施上の課題の中で履修状況を踏まえた設置科目の整理を行った。</p> <p>②学習指導要領の趣旨を踏まえた観点別評価は適切に実施されたと判断する。引き続き、次年度に向けてもその継続を図る。</p> <p>(2) ①姉妹校交流の運営における費用、滞在中の健康管理、交流生徒の受入れ家庭の選定、引率者の決定の過程における諸課題について整理した。</p> <p>②今年度の国際交流に係る活動は、国際交流委員会の生徒が主導して、多くの企画を実施し、大きな成果を生むことができた。</p> <p>&lt;学習指導&gt; (1) 生徒の学習の「自立・自走」を促し、教科科目における基本事項の早期完成に向けた効率的な授業展開を教科ごとに検討し、年間指導計画を立案することが求められている。</p> <p>(2) DX ハイスクール事業を活用し、デジタル機器を活用した主体的な活動や教育活動における生成AIの活用が可能となる環境整備を行った。</p>	<p>&lt;教育課程&gt; (1) ①教育課程の検証を継続する。</p> <p>②指導と評価の一体化を一層推進し、観点別評価の適正な運用に資する。</p> <p>(2) ①次年度は姉妹校交流の運営に携わる教員の引継ぎを図る。</p> <p>②姉妹校交流事業の実施は国際情勢と密接に関連付けられている。それを踏まえて、柔軟な活動計画を想定しておく必要がある。また、国際交流行事に参加した生徒の成果を全生徒へ還元する機会を充実させる。</p> <p>&lt;学習指導&gt; (1) 適切な授業進度と各教科科目における「深い学び」の両立を図る授業づくりのために、教科担当者間での情報共有を密にしていく。</p> <p>(2) 事業支援金で購入した機器等の活用進め、大学等の外部機関と連携しながら、グローバル探究における数理・データサイエンスを扱う学習活動の充実を検討する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1)豊かな社会性や他者への思いやり、冷静な判断力など「真のトップリーダー」に求められる人間的な素養の育成を図る。</p> <p>(2) 基本的生活習慣の確立や規範意識の醸成を図る。</p> <p>(3) 個別な支援が必要な生徒に対する教育相談体制の充実を図る。</p>	<p>(1) 学校生活や社会との関わりの中で、他者を思いやる心や規範意識、判断力や行動力の伸長を育む教育活動を一層充実させる。</p> <p>(2) 規則正しい生活や時間管理など、基本的生活習慣の確立に主体的に取り組む姿勢を育てる。</p> <p>(3) 安心・安全で意欲的に学校生活を送れるよう、教育相談体制の更なる充実を図る。</p>	<p>(1) 授業や部活動、学校行事等をとおして協働し、適切に判断して行動できるよう自覚を促す。</p> <p>(2) 職員間で生徒指導提言が改訂された趣旨の理解を深め、登校時間の順守や挨拶の徹底、TPO に則した身だしなみについて、主体的な自律を促す。</p> <p>(3) 学年団・SC・SSW と連携を密に取り、組織的な教育相談を実施する。生徒個々の状況に応じてケース会議を開催する。</p>	<p>(1) 授業や部活動、学校行事等での取組を通して、充実感や自信を持つことができたか。(生徒による授業評価、学校生活アンケート)</p> <p>(2) 適切かつ主体的に取り組むことができたか。(担当者ごとに評価)</p> <p>(3) 個別の支援が必要な生徒に対する情報共有が円滑になされ、組織的な対応ができたか。(担当者による評価)</p>	<p>(1) 生徒が行事の運営をとおして、他者の意見を受け入れつつ、リーダーシップを発揮できるよう支援した。</p> <p>(2) 引き続き、学校生活に必要な基本的な生活習慣やあいさつ等、基本的なマナーに係る指導を行った。</p> <p>(3) 個々の課題を抱える生徒の情報交換を密にし、SC、SSW、スクールメンターとも連携してケース会議を実施し、組織的な支援を行った。</p>	<p>(1) 生徒の自主性を尊重しつつ、行事運営上必要な情報共有のために、生徒や生徒会担当職員との連携強化を図る。</p> <p>(2) 生活習慣、マナーについて振り返る機会をつくり、生徒が主体的に他者への配慮を行えるように取り組む。</p> <p>(3) 引き続き、個々の支援に必要な生徒に対する教育相談体制の確立を図る。</p>	<p>・卒業式や学校行事等に参加して、生徒たちが主体的にかつ澁刺と活動している姿をいつも目にする。横浜翠嵐高校はとてよい学習環境が整っているといえるといえる。</p>	<p>(1) 「真のトップリーダー」育成のため、生徒の主体性を最大限に発揮できるような機会を設定し、生徒もそれに応えて生徒の主体的な活動の充実を図った。</p> <p>(2) 生徒指導に係る学校としての意思決定を円滑にするため、管理職と生徒支援グループとの連携を密にする。</p> <p>(3) 教育相談に係る業務を円滑にするため、教育相談担当職員を中心に、SC やSSW、スクールメンターを含めた連携体制を維持していく。</p>	<p>(1) 生徒会本部生徒と生徒支援グループ職員との情報共有の機会と連携強化を図る。</p> <p>(2) 生徒に対して学校生活全般において「他者への思いやり」を常に意識させ、その場にあった望ましい行動について考えさせる機会をつくる。</p> <p>(3) 生徒の悩みや変化を見逃さないために、日ごろの生徒の動向の把握や情報共有を密にしていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	(1)学力向上進学重点校として、生徒の高い進路希望を実現させるための支援体制を確立する。 (2)大学卒業後の進路も見すえたキャリア教育を推進する。	(1)生徒の高い進路志望の実現のための指導・支援を更に推進する。 (2)生徒自身が主体的に大学卒業後の進路を見すえることができるようなキャリア教育を実施する。	(1)①進路集会、保護者進路説明会を通して、生徒保護者に対して外部試験のデータだけでなく、進路実現に対する高い意識付けを行う。 ②生徒の進路実現に向けた学習支援「翠嵐スタンダード」や心構え「翠嵐ベーシック」について指導の場面ごとに定着を図らせる。 (2)生徒が能動的に探究できるような校外研修、分野別職業講話の形態を検討する。	(1)①学力向上進学重点校として求められる進路実績を上げることができたか。(令和7年度卒業生の進学実績) ②生徒の進路実現に向けた取組を推進することができたか。(担当者による評価) (2)大学での学びに対する理解や職業観に加え、主体的に取り組む態度を涵養することができたか(生徒対象アンケート)	(1)①学力向上進学重点校の指標としての難関国立大学等の現役合格者数は84名(R8.3.13現在)で、県教委の定める指標(10名以上)を大きく上回り達成することができた。 ②「翠嵐スタンダード」や「翠嵐ベーシック」を活用しながら、高い進路実現を図る学習事項の定着を図った。 (2)卒業生を講師に招いて3月には分野別職業講話を実施した。同窓会組織と連携した講師となる卒業生の人材バンクの機能が軌道に乗り始め、生徒に大変有意義な機会となった。	(1)①模試のデータと合格実績の相関関係を検証しながら、次年度への進路指導計画に検証結果を反映させる。 ②難関国公立大学合格に必要な各科目の授業進度や発展的な学力の定着に向けた最適化を検討する。 (2)引き続き、分野別職業講話の講師となる人材について安定的な確保ができるように努める。	・横浜翠嵐高校が非常に進路実現に大きな実績をあげ、生徒・保護者のニーズに応えたことは素晴らしいことである。 ・引き続き、生徒・保護者の高いニーズに応える取組に期待している。	(1)①多くの生徒が難関国公立大学現役合格を果たした。今後も安定して高い進路実績をあげるため、今年度の取組成果と課題を整理し、次年度の取組の指針とする。 ②「翠嵐スタンダード」や「翠嵐ベーシック」が難関国立大学への合格に大きく寄与している。教科横断的な視点でアップデートを図る。 (2)今年度の分野別職業講話も生徒にとって有意義な機会となった。生徒のニーズに沿った講師選定ができるよう同窓会との連携を強化する。	(1)①本校がこれまでに構築した進路指導の枠組みを継承し、生徒・保護者への情報提供や学習意欲の維持に向けた取組を推進する。 ②難関国公立大学に必要な発展的な学力の定着に加え、総合型選抜国立大学への合格に大きく寄与している。「探究活動」の充実を図れる校内体制の構築を視野に入れていく。 (2)講師となる人材確保のために、教員側の自己開拓に加えて同窓会からの情報提供の両面で取組を推進していく。
4	地域等との協働	本校の教育活動や特色ある取組について、情報を発信し、地域に開かれ、信頼される学校づくりを目指す。	(1)本校の教育活動や特色ある取組に関する情報を広く発信するとともに、学校運営協議会等による地域との協働を更に進めていく。	(1)①学校HPやメール配信システムを活用し、迅速で正確な情報を発信する。 ②本校を目指す多くの中学生・保護者が満足しうる学校説明会を実施する。 ③地域との連携を可能な範囲で推進し、生徒に地域貢献の大切さを理解させる。	(1)①学校の情報を迅速かつ正確に発信できたか。(HPの更新状況) ②学校説明会や学校見学を複数回実施し、本校への理解をより深められたか。(参加者アンケート) ③生徒が地域との連携をとおして、生徒が地域連携の大切さを理解できたか。(担当者による評価)	(1)①HPをほぼ毎週更新し、学校としての情報発信力の向上が図れた。 ②本校の取組や生徒の様子を適切に中学生やその保護者に伝えるべく、年間をとおして組織的な広報活動を行った。 ③地域ケアプラザにて本校の科学部や書道部が講師となり小中学生を対象にしたイベントの講師として参加し、地域貢献を担った。また、近隣の市民病院と連携し、医学部志望の生徒を対象に院内の施設見学を実施した。	(1)①情報発信力の向上に努め、本校ホームページのページ構成を確認しながら、その内容の更新に努める。 ②学校見学会の際に、生徒の姿を見せることは意義あることとして、説明会時に多くの部活動の様子がわかるように改善していく。 ③地域自治会等との情報交換を密に行い、学校の教育活動との両立を図り、地域への貢献活動を実施する。また、市民病院との連携は次年度も継続していく。	・来年度は本校と三ツ沢地区全体の中で、よりよい連携を図っていきたい。特に地域防災活動の分野で本校と関わりを深めたい。 ・市民病院として、横浜翠嵐高校の医学部志望者に向けた施設見学を実施できたことは有意義だった。来年度は翠嵐高校の卒業生が医師として着任する予定なので、更なる内容の充実を図りたい。	(1)①学校ホームページは昨年よりも更新頻度をあげながら、適時に情報発信をすることができた。 ②学校説明会の運営に生徒・職員が関わることにより、学校全体の意識が高まった。 ③現実的な視点から、本校の部活動の一環として地域貢献活動を位置付けるとともに、地域防災とのかわりについて協議を始める。市民病院との連携を、医学部ガイダンスの一プログラムとして実施する。	(1)①学校のページを精査し、部活動等で長らく更新がなされていないページの刷新を図る。 ②学校説明会の趣旨を共有し、全体で共通認識を持ち、人員配置を考えていく。 ③部活動に地域活動を加味し、生徒の主体的な活動の一環として位置付けていく。市民病院の施設見学を医学部志望生徒の意欲の向上につなげていきたい。
5	学校管理 学校運営	(1)事故・不祥事防止に向けた取組を徹底する。 (2)防災意識の向上を図る。 (3)教員が子どもたちと向き合う時間を確保するために、一層の「教員の働き方改革」を推進する。	(1)全職員による丁寧かつ粘り強い生徒指導に取り組み、相互理解に立脚した生徒の人間関係の構築力を育成するとともに、秩序・規律ある学習環境を維持する。 (2)避難訓練等の防災教育をとおして、教職員及び生徒の防災意識の向上を図る。 (3)職員の働き方改革を推進し、時間外勤務時間の縮減と休暇の取得しやすい職場環境を構築する。	(1)不祥事防止会議を活用しながら、とりわけ入学者選抜・成績処理における点検体制の徹底を図り、事故・不祥事の防止を図る。 (2)地域との協働により、地域防災の視点を取り入れ、実効性のある避難訓練やDIG訓練を実施する。 (3)職員の業務アシスタントを有効に活用し、職員の時間外在校時間の縮減及び夏季休暇の完全取得を目指す。	(1)不祥事防止会議を適切に開催できたか。また、入学者選抜、成績処理における点検体制の徹底が図られ、事故・不祥事ゼロを実現できたか。(担当者による評価) (2)地域との連携を深め、避難訓練等の実施より、教職員及び生徒の防災意識に向上が見られたか。(担当者による評価) (3)業務アシスタントの活用はできたか、時間外在校時間の前年度からの縮減できたか及び夏季休暇の100%取得が達成できたか。(業務アシスタント業務日誌、時間外在校時間、夏季休暇の取得状況)	(1)企画会議に合わせて、不祥事防止会議を11回開催し、年間をとおして不祥事防止に努めた。年度途中でヒヤリハットの事例を職員から集めて、日ごろの業務を見直す機会をつくった。 (2)校内で大地震が起こった際に、生徒がその場に居合わせた状況に応じて、適切な状況判断に基づいて避難行動をとることの大切さを意識させる新たな形式での避難訓練を実施した。 (3)2名配置されている業務アシスタントを有効に活用し、職員の業務軽減、とりわけ全日教頭時間外在校時間の縮減を図った。また、積極的に休暇を取得できるような職場環境の育成に努め、夏季休暇については、完全取得率はほぼ100%であった。	(1)本校では不祥事ゼロを達成できたが、業務上のヒヤリハットは意外と存在した。今後も引き続き緊張感をもって業務が遂行できるような校内体制を構築する。 (2)所定の避難経路をたどって校庭に集合する旧来の訓練方法だけでなく、多様なタイプの災害が予期せぬタイミングで起こった時に、適切な対処につながる訓練方法について検討する。 (3)特定の職員に時間外在校時間が多いため、個々の勤務状況を把握しながら、時間外在校時間の大幅な縮減を目指す。	・地域防災体制を知ってもらうため、地域主催の防災行事に、横浜翠嵐高校の職員に参加を願っている。	(1)管理職に対して職員から情報が上がり、不祥事に係る予兆を見逃さない組織づくりに努めた。定期的に業務を見直した。 (2)防災意識の醸成には避難訓練だけでなく、関連教科との学習内容とも連携を図る方向性を模索する。 (3)本校での業務アシスタントの活用状況は非常に高い。また、「職員の働き方改革」を学校全体で推進していき、時間外在校時間を把握するシステム改修により、個々の職員が時間外在校時間の見える化が可能となった。	(1)不祥事防止は日ごろからのたゆまぬ意識啓発と未然防止に尽きる。引き続き研修等の機会をとおして進めていく。 (2)引き続き、実践的な実施方法を検討しながら地域防災に係る取組との連携を図る。 (3)教員の心身の健康確保のために勤務時間外在校時間の縮減や休暇の取得促進につながる具体的な取組方法について検討する。